

タヌキ親子は

町の人気者

都会生活にも慣れ元
気いっぱいのタヌキ
一家と古谷さん



店先で愛きようたつぷり

豊中

豊中市豊南町西三の
中古車販売店「ボンコ
ツ俱樂部」―古谷勇治
さん五〇経営―の店先
で飼われているタヌキ
夫婦に五匹の赤ちゃん
が誕生、親子ともども
愛きようたつぷりで町
の人気者になってい
る。

タヌキは人里近くに住む
動物で、人に飼われること
も多いが、子供までもうけ
るケースは少なく、天王寺
動物園は「よほどうまく、
大事に飼われたのでしょ
う」と話している。

古谷さんは昨年八月、故
郷の宮崎県日南市に里帰り
した際、はく製店で、わな
にかかって捕まった生後一
年くらいのメスのタヌキを
買い、大阪に連れ帰って、
タンと名付けて飼いはじめ
た。三週間後、同県串間市
に知人を訪ねた際、今度は
漁港でおぼれかけていたオ
スのタヌキを見つけ、助け
て、ボンと名付けた。

今春誕生の子もスクスク 都会生活に順応

二匹は、昼間はひっきり
なしに車が往来する市道沿
いの店先につながれ、夜は
別々の小屋に。最初は車の
警笛や人影におびえていた
が、四か月もするとすっか
り慣れ、タンは火の着いた
たばこを見つけると、足で
踏みつけ、背中をこすりつ
けてもみ消す芸当を覚え、
「ボンちゃん」「タンちゃ
ん」とみんなに声をかけら
れる人気者に。慣れたころ
を見計らって、今年初めか
ら同じ小屋に入れたところ
ろ、四月末、メス三匹、オ
ス二匹の子タヌキが誕生。
体長十センチほどしかなか
った子タヌキも、今では四倍
に成長。その後、オス、メ
ス一匹ずつが滋賀県信楽町
の陶芸店にもらわれて行っ
たが、残った三匹は、元氣
に成長、都会育ちらしく昼
間から店先でじゃれ合い、
本来の夜行性も忘れて愛き
ようたつぷり。

古谷さんは「オスはおと
なしく、メスはちっと意地
悪といったように一匹ずつ
性格が違い、かわいいで
すよ。いまだに野山に放し
ても自活できないだろう
し、大事に育てます」と話
している。

天王寺動物園は「野生の
タヌキをカッパルで飼い、
繁殖するまでいったのは珍
しい。飼い主との折り合い
や、二匹の相性が良かった
のでは」と言っている。